



2年振りの舟舞台囃子を披露

7月18日、沖端水天宮横の掘割で舟舞台囃子保存会の演奏がありました。毎年5月に開催される沖端水天宮祭りで演奏を披露していましたが、新型コロナウイルスの影響で2年続けて中止に。練習をしてきた小中学生のために発表の場を設けようと企画されました。当日は、小中学生40人がお揃いのTシャツを着て演奏。矢留小学校6年の原田結心さんは「水天宮祭りで発表できなくて悲しかった。緊張したけど、発表する機会ができて元気になりました」と話してくれました。

CONTENTS

	ページ
市民協働事業、火災警報器設置	2
かかりつけ薬局を持ちましようほか	3
お知らせ掲示板	4-7
人権・同和教育シリーズ	8

●発行 柳川市 / 〒832-8601 福岡県柳川市本町 87-1
●編集 総務部企画課広報広聴係 (直通) ☎0944-77-8425 FAX74-5520
●URL <https://www.city.yanagawa.lk.jp/> ●e-mail kouho@city.yanagawa.lk.jp

「広報やながわ」は、年齢や障がいの有無などを問わず、できるだけ多くの人が読めるように、ユニバーサルデザインを導入しています。

友だちの気持ちを 考えられる人に

豊原小学校4年
金城 加奈さん



人権作文

市内の小中学生が書いた人権作文を紹介します。

みなさん、「顔」というお話を知っていますか。「かがやき」という本にのっています。私たちの学級では、道とく的时间に「顔」のお話を読んで、みんなで考えを出し合いました。

このお話は、8つの場面の顔を紹介してあります。そこで、楽しい時や悲しい時、おこっている時など、自分や友だちはどんな顔をしているのかを考えました。

私が一番心にささったのは、5番目の女の子が、上級生に思わず文句を言った時の顔です。なぜなら、上級生がいっしょに歩いていたら友達に、「おかしな歩き方をするな。ちゃんと歩け。」と言って、歩き方のまねをして、からかったからです。

私も読んでいて、はらがたちました。なんで人のとくちょうをおもしろがることのできるのだろうと。でも、すぐに考えこみました。もし、私が、この場面になったら、こんなふうに見えるだろうか。上級生に言いかえせるだろうか。「こわくて、だまっしてしまうのではないかと。私だったら、おこっているような、それでいて困っているような顔になるのではないかと思いました。でも、やっぱり、私もこんな場面で、「からかっではいけません。人の気持ちをきずつけることはいいことです。」と、はつきり言える強さを持ちたいです。

2番目に心こじった顔は、7番目の算数の授業中

の顔です。これは、にたよくな体けんがあつて、私もきつと同じ顔をしていたらどう思ったからです。この前の算数の時間に、分数の問題がありました。「どうしよう。分からないままじゃいやだけど、手をあげて先生に聞くのははずかしいし。」と思っていると、となりの席のお友だちが、「どうしたの。こは、こんなふうにするよ。」と声をかけてくれました。このアドバイスのおかげで、問題が分かりうれしくなりました。そのときとお友だちは、私の顔を見て、困っていることに気づいてくれたんだと思えます。

顔は「心のかがみ」、いろんな心をうつすのだなと、

あらためて考えることができました。私は、これから自分の顔はもろろん、友だちの顔もしっかり見つめて、友だちの気持ちを考えられる人になりたいです。

【先生からのひと言】
「顔」の学習を通して、人の気持ちは表情に出ることを再認識した加奈さん。今までの自分を見つめ、勇気を持って正しいことを伝えたいという思いや、友達から気持ちに気付いてもらえたいうれしさがよく伝わってきます。加奈さんのように表情から気持ちをくみとれる人が増えると、思いやりあふれる豊原小学校になりますね。